

大学院生による学習支援の深化 ～支援者の成長とそれを支えるもの～

千葉大学アカデミック・リンク・センター
特任助教 姉川雄大

学習支援デスク



4



教員、図書館員、 学生による サポート

N棟 2階

5



6

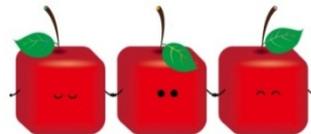


分野別 学習相談

各専門分野の院生（ALSA-LS）が学習を支援します。
授業でよくわからないこと、先輩にきいてみよう！

2014年4月～	月	火	水	木	金
3 12:50-14:20	物理 文系	物理 文系	物理 化学	化学 文系	物理 化学
4 14:30-16:00	物理 文系	物理 化学	物理 化学	物理 化学	数学 物理
5 16:10-17:40	数学 文系	数学 化学	数学 物理	物理 文系	数学 化学
6 17:50-19:20	数学 化学	数学 文系	数学 物理	物理 化学	物理 化学

「文系学習相談」はレポートの書き方、
大学での勉強の仕方などです。



問い合わせ先：

アカデミック・リンク・センター

(alc-info@chiba-u.jp) ver.20140421

ALSA-LS

アカデミック・リンク学習支援担当学生・アシスタント

- Academic Link Student
Assistant - Learning Support
- 補習教育的学習相談のみでなく自律的学習者としての成長の支援を目的とする
 - ① 答えを教えるのではなく自分で考えることができるようになるための支援を行うこと
 - ② 授業を尊重した対応をすること

体制

- 各専門分野の院生 **2人で1コマ**
(1コマで1~2の専門分野に対応)
- 院生スタッフは公募 (試行期は教員推薦)
計 19名 (2014年6月現在)
数学2+2人・物理6人・化学5人・文系6人
- 研修・「**振り返り会**」を実施(年6回)
 - 学習支援者としての気づきやシステムの課題と改善を全体で共有する

学習相談件数

	数学	物理	化学	文系	計
試行期(2012.1-2)	7	7	7	0	21
2012年度前期	53	58	14	8	133
2012年度後期	38	34	19	8	99
2013年度前期	76	64	37	8	185

※2013年度後期(168件)のデータ詳細は未整理ですすみません

利用者アンケート

- ・ 分からないところが **よく分かった**
- ・ 細かくていねいに教えてくれた
- ・ **親身** になって教えてくれた
- ・ 安心できる！
- ・ 学生なので **訊きやすい** し分かりやすかった
- ・ 考えが **対話** で整理された
- ・ 実際の先輩のレポートを見ることができた



「振り返り会」で話し合ったこと

- 専門分野の配置・時間割・時間帯
- 記録や対応方式、広報
- 様々な学習相談者への対応
 - 自主的な学習姿勢がなく答えのみ求める学生にどう対応するか
 - 高度な専門性を要し、
すぐに解答できない質問に
どう対応するか・・・など



考える学生が考える学生を創る

「振り返り会」から見えてきたこと

1. 学生の学習態度と相談内容
2. 学習相談対応の問題点
3. ALSAによる課題解決のパターン
4. 学生への効果
5. 支援者側の成長
6. 何が学習支援を可能にするのか
7. 学習相談以外の学習支援(セミナー)

1. 学生の学習態度と相談内容

- 「院試やテスト」「レポート」
- 大学で初めて出会う概念や考え方
- 授業でノートをきちんと取らずに「分かりません」、スマホで問題だけ撮ってくる⇒「まずきちんとノートを取りながら授業を聞こう」
- かなり真面目に取り組んでも用語の意味が分からないのがつまずきのポイント

2. 相談対応の問題点

- ① 相談内容と担当分野のコマのミスマッチ
- ② 高度な内容や専門外の質問への対応
- ③ 授業に出てノートを真面目にとっているにもかかわらず「分からない」、授業の何もかもが分からない
- ④ 「特定の問題を解けないという相談」でも実は「本当に分かっていない部分は違うところに」、何が分かっていないかが分かっていない

3. ALSAの課題解決パターン

① 相談内容と担当分野

- 「来てみてからこちらで判断して協力体制をつくっている」⇒他の担当者のコマを紹介
- 「物理や化学でも現象を記述する数学の部分への対応は数学担当者をお願いした」⇒混合コマの場合にはその場で分担
- 「数学のコマに物理の質問を持ってきたが明日レポート・次の時間が試験」⇒「分からない用語を説明させながらこちらで論理的に説明できれば相談者も納得」

3. ALSAの課題解決パターン

②高度な内容や専門外の質問

- 「他のALSAに聞くなど総動員」「専門の近いALSAを紹介してMLで対応を依頼」
- 「家に持ち帰って解いて次の回にまた来てもらいました」
- 「教えるというより一緒に取り組むかたち」
- 「一緒に教科書を見返して確認・復習して回答を導く、そうやって明らかに論理的におかしいところが出てきたら、また一緒に改善」

3. ALSAの課題解決パターン

③「全然、何もかも分かりません」

- 「今はどんな風にやっているのかを聞いてつまづきのポイントを探りながら」「一問解いてみよう」「少し簡単な問題や限定された場合の問題などをやってもらって、どう考えているのかを見抜く」「自分は話さず相談者に考えさせる時間が長い」
- 指針を示して「これからがんばろう」
- 一緒に教科書を読みながらディスカッション
- 「考え方の切り替えが必要な話は時間がかかるが、一度で説明をしないと意味がない」

3. ALSAの課題解決パターン

④何が分かっていないか

- 「『数学は解くものだ』と質問に来ても本当に分かっていない部分は別にある。そこを見抜くのに20～30分かかる。ヤマを張って質問していく。『例題を解いてみようか』『定義に戻ってみようか』。こちらでは解かずに、話していくと互いに納得すると、一つやれば数問答えたことと同じになる」
- 「教科書・ノートを持参してほしい。授業でどういう風に習ったかを知りたい。その方が、質問者が納得するように教えられる」

4. 学生への効果

- 本を紹介したら次までに読んできた
- まず自分で全部解いて、ここはこの考え方で良いのかと確認に来るようになった
- 「何回も来る相談者は、『ここまで分かりました』と言ってくるようになった。『どこまで分かっているの?』ということをいつも聞くので、『ここまで分かったけどここから分かりません』と質問をまとめてくるようになった」

5. 支援者側の成長

- 相談対応における課題解決パターン
 - ① ディスカッションや演習で確認
 - ② 相談内容と担当者のマッチング
 - ③ 一緒に思考、互いに納得
- 相談者の知的背景と学問分野内／間の「知の構造」とのマッチング（授業や教材への関心、学習支援システム改善、プレFD）
- 「専門分野」を広い文脈に置き直す
- 対応法は試行錯誤・共有・ディスカッション

6. 学習支援を可能にする条件

- 学生をつまづき⇒自らの知識の蓄積過程を専門知の全体像の中でたどり直し、理解の水準の移動を見極める作業(学生が自分の知識を専門知の体系に沿って階層化・整理することを支援する)・・・なぜ可能か？
- ALSA(学習者であり研究者でもある)と学生の共通の目的＝唯一の基盤は専門知識の内容
- 運営者側の条件: 専門知とはどのようなものか(学びには中身があること)を理解できること

7. セミナー型の学習支援

- レポート作成セミナーの実施(文系・理系)
実施⇒観察・反省⇒改善の蓄積
- 「ALSAカフェ」(「1210あかりんアワー」内)
 - 各分野代表者の協力により、「学習相談の使い方」を案内
 - 「文系では、学習という概念を広げて示してあげることも必要では」(振り返り会から)⇒映画を見てみよう、ミュージアムに行ってみよう、本を読んでみよう...

ご静聴くださり、
どうもありがとうございました。

